

日本生体医工学会 2019 年度第 4 回理事会議事録

日時：令和 2 年 1 月 17 日（金） 14:00 ～ 16:30

会場：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター カンファレンスルーム 210

<出席者>

理 事 長： 木村 裕一

副理事長： 守本 祐司、 大城 理（兼関西支部長）

理 事： 川田 徹、 平田 雅之（遠隔出席）、 井村 誠孝、 坂田 泰史、 中島 一樹、
成瀬 恵治（兼 2020 年大会長）、 松村 泰志、 佐久間 一郎（兼関東支部長）、
中島 章夫、 原口 亮、 福岡 豊、 村垣 善浩

監 事： 吉田 正樹、 澤 芳樹

<オブザーバー・出席者>

幹 事： 永岡 隆、 京相 雅樹

事務局長： 磯山 隆

オブザーバー： 清水 久恵（北海道支部長）、芳賀 洋一（東北支部長）、長谷川 純一（東海支部長）、
鈴木 亮一（北陸支部長・遠隔出席）、 伊良皆 啓治（九州支部長）

<欠席者>

理 事： 松田 哲也、生田 幸士、横澤 宏一、椎名 毅（兼 2021 年大会長）

監 事： 中沢 一雄

<理事会議題>

0. 理事会成立の件 総務 【議案 A】 大城副理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 19 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 13 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 2019 年度第 3 回議事録承認の件 総務 【議案 B】 木村理事長

資料に基づき、2019 年度第 3 回理事会議事録案が審議され、全会一致で原案通り 承認された。

2. 予算について 【議案 G】 中島(一)理事、木村理事長

中島(一)理事より、2020 年度予算についてはすでにメールで依頼済みであることが報告された。

2017 年度の決算では、各委員会や研究会、大会や生体医工学シンポジウムについては 800 万円の赤字だったが、2018 年度は 400 万円の赤字と改善傾向にあった。2019 年度の予算では既に 10% の削減となっていることから、赤字傾向の更なる改善が期待できる。現状では予算内で執行が進んでいるが、2019 年度の決算は未了であることから、10%の縮減のままとすることが全会一致で承認された。（中島(一)理事）

併せて必要経費、交通費等については少額であっても申請していただくよう、理事長から依頼があった。

次に報酬及び謝礼についての規定が確認された。会員外には謝礼の支払いが可能であり、会員

に対しても特段の理由があれば支払うことが可能である。規程に従って支払う必要があるので、支払いが発生しそうな案件がある場合には、金額及び支払いの可否について、財務担当理事に予め確認を取ることを確認した。(理事長)

さらに、現在約 1.5 億円の基金に相当する資金があり、遊休資産となっていることから、その運用について金融機関に相談したが、現在のマイナス金利政策のために預け入れを断られた旨報告があり、運用等は当面行わないこととなった。

3. 臨床 ME 専門認定士の認定日について 【議題 S】 中島(章)理事

現在、1 月 1 日を認定開始日とする一方で、その承認を 1 月以降の理事会で行っていることに對して、医療機器学会が疑問を呈している件を検討した。(理事長)

認定日が理事会における承認に先立つ日付に設定される点については法的に問題ない旨を確認したうえで先方に諮ったところ、案が受け入れられず、医療機器学会側としては両理事会での承認以降の日付とすべきであるとの意見であった。以上のことから、今年度は現行の手続きで実施しつつ、今後 CE 委員会を中心に医療機器学会との間で認定の時間進行について検討していくこととなった。

なお、新しい方式が合意されるまでは、現状の時間進行を継続することを、医療機器学会と確認しておくこととなった。

4. 立ち入り検査について 木村理事長

2 月 3 日に内閣府による公益法人に対する初回の立ち入り検査が実施される旨の報告があった。準備は順調に進んでいるとのことであった。

5. 規定改訂について 木村理事長

規約の改定の必要があれば、3 月または 5 月の理事会に向けて準備を進めるよう、依頼があった。

6. 生体医工学テキストの進捗状況 【議事 H】 平田理事

テキストの執筆は進んでいるが、5 名の著者の原稿が脱稿していない旨報告があった。対象となる章は重要であることから、可能な限り督促するが、必要に応じて執筆者の変更を検討することとなった。Web ベースでの用語集との連携は、検討中である。

7. 役員選挙について 【議事 R】 川田理事

役員選挙について、電子投票の環境が整い、利用が可能となった。重複チェックなどが実施されるので、無効票が減ることが期待できるとのことである。ログインしないと被選挙者名簿が見られない点があるとの指摘があり(大城副理事長)、改善することとなった。WAA インターナショナルが投票を管理・運営しており、結果のデータ管理は WAA 社が担当する。守秘義務契約は学会支援機構と WAA 社との間で取り交わし済であることを確認した。したがって、学会としての守秘義務契約は不要である。

また理事長より、学会の活性化のためには、支部、専門別委員会、世代からの代表が理事会に参加すべきであることから、選挙活動の活性化への依頼があった。

8. 臨床研究法 WG の状況 【議事 Q】 木村理事長

萌芽的段階を含む多くの医工学研究分野が法律の管理下に入り、研究に不都合が生じている現状への対応として、2019年10月に臨床研究に関する該当性を判断するガイドラインを公開した。今後はこのガイドラインを用い、学会が医行為の該当性を定める別表の作成を進め、これに基づいて該当性を確認することができるよう検討が進んでいることが報告された。

現在では電気刺激に関する別表、リハビリテーションに関する別表等について検討が進められており、この他の分野の別表の作成への協力が依頼された。

今後の方向性として、法改正に向けた活動を進めるため、ガイドラインに賛同して頂く学会を増やしたいことから、関連学会への働きかけが依頼された。賛同頂いた学術団体等の名称を、ガイドラインに記載することを確認した。また、日本学術会議での活動が有効ではないかとのコメントがあり、連絡を取る事となった。コンピュータ外科学会、ライフサポート学会などが賛同の予定との発言があった。(佐久間理事)

また、併せて研究倫理の遵守の重要性を確認し、会員には所属する機関が開催する各種教育訓練への参加を奨励することとした。

9. 臨床工学技士会連携 WG 【議事 F】 木村理事長

日本臨床工学技士会の IFMBE への加入のための検討が進んでいる。岡山大会で併催される APCBME 2020 に合わせて IFMBE の理事会が開催されるので、そこで審議される。1カ国1学会の加入が原則であるが、先行して加入している本学会が日本臨床工学技士会の IFMBE への加入を了承しているため、日本臨床工学技士会の加入には問題ないとの報告があった。

日本臨床工学技師会が加わると、IFMBE での日本の投票権が4票となるが、これを日本臨床工学技士会1票、生体医工学会3票で按分することについて両学会で合意が得られている旨報告があり、本理事会においてもこの件について全会一致で承認された。

生体医工学会大会、生体医工学シンポジウムの参加による血液浄化臨床工学技士、不整脈治療専門臨床工学技士、呼吸治療専門臨床工学技士、認定医療機器管理臨床工学技士、認定集中治療関連臨床工学技士の受験及び維持に関する単位付与を継続する旨確認された。

また、臨床現場でのニーズについて、臨床工学技士側へのインタビューが必要な場合は、設定が可能なので事務局に問い合わせを頂きたいという発言があった。

10. 第2種 ME 試験について 【議事 L】 中島(章)理事

第41回第2種 ME 試験の完了状況が報告され、合格者が全会一致で承認された。受験者の減少が見られるが、これは臨床工学技士資格の受験減に由来しており、人口の減少に原因があることから、今後も続くことが予想されると報告された。

学会と試験委員会との連携性について、今後徐々に見直してゆくことが望ましいのではないかと提案があり、検討することになった。(理事長)

また今年度新設した北陸の試験会場については、受験者数、運営共に問題は無かったことから、継続することが確認された。

2020 年度の実施日はオリンピックの日程を考慮し、2020 年 9 月 13 日(日)とすることが全会一致で承認された。

11. ABE の IF 取得に向けた取り組みについて 【議事 M】 福岡理事

採択されている JST による ABE のプレゼンス強化のためのコンサルティングが進んでいるとの報告があった。本事業は 3 つの学会が受けているとのことである。

Information for Authors の修正中で 2 月半ばに完了の予定である。修正は形式的な内容に留まることと、IF 取得のためには改訂版の公開を急ぐべきであることから、理事会の審議を経ずに公開し、事後に内容を審議することが承認された。

IF の取得について、ABE 掲載論文への引用をもう少し増加することで実現できることから、理事会メンバーに対し、EMBC の conference record 原稿での引用を支部や周辺に依頼して頂きたい旨、依頼があった。(理事長)

12. 学術・若手 WG 報告 【議事 J】 原口理事

原口理事が担当している学術担当は、専門別委員会の改廃を所管することから、原口理事が会長を担当している生体画像と医用人工知能研究会の会長交代について審議され、全会一致で承認された。

専門別研究会評価委員会の立ち上げについて、委員の構成について審議があり、資料の通り全会一致で承認された。研究会の活性化を目的として、今後は評価委員会による研究会の評価並びに改廃を着実に進めることが確認された。

研究会ならびに大会の活性化を目的として企画された、岡山大会での講師招聘に対する補助制度について、有効な提案が無かったため、岡山大会では見送ったことが報告され、全会一致で承認された。今回は研究会が検討するための期間が不十分であったが、学会の活性化への寄与が期待できることから、京都大会に向けて早めに募集して実施することとなった。

岡山大会での YIA の実施状況について、報告があった。実施に向けた準備が進んでいる。YIA の応募内容が一時閲覧可能となっていたが、現在は修正済みであることが報告された。本活動への医学系からの参加状況について、懸念が示され、今後申請状況を見ながら参加を後押ししてゆきたいとの発言があった。

サマースクールについて、看護理工学会と合同で実施する旨提案があった。経費は両学会で別会計となることから、開催に係る契約や申し合わせは不要であることを確認し、実施は全会一致で承認された。また、会員の勧誘も併せて行うことが確認された。開催地が東北支部となるので、東北支部にも報告、告知を行っておくべきであることが確認された。

13. 2020 年学会大会進捗報告 【議事 K】 成瀬理事

第 59 回岡山大会の実施計画および予算についての報告等、準備状況について報告があった。主な報告事項は以下の通りである。

- 1) 中四国支部大会を併催する
- 2) 中・四国支部会の参加費は無料だが、支部会の参加者は大会の参加費を支払って支部会に参加する
- 3) 特別講演の演者 2 名(ボストン大学 Bela Suki 先生、筑波大学山海 嘉之先生)については内諾が得られている
- 4) 岡山県内の高校 8 校が参加する高校生参加の企画を用意している
- 5) 臨床工学技士会との連携として、臨床工学技士養成校の学部学生、専門学校生は参加無料であり、広く参加を呼び掛けており、3 日目に連携セッションを設けている
- 6) 宇宙関連のセッションで宇宙飛行士である古川 聡氏の講演が予定されている
- 7) 運営費節減を目的として、プログラムや予稿・抄録の紙媒体での配布を省略する
- 8) 併催の APCMBE の参加費は懇親会費を含んでおり、大会参加者に対する参加費と懇親会費の合計と同額である。

また、以下の点について、理事会参加者に対して協力依頼があった。

- 1) 企業からの申し込みが少ない点が懸念点として報告され、一層の協力をいただきたい
- 2) 申し込み演題数は現状で 131 演題であり、演題数充実のため、協力をいただきたい
- 3) APCBME への積極的な投稿をお願いしたい
- 4) 大会中の会議開催を企画する委員会、専門別委員会は、学会事務局に連絡を入れていただきたい

理事長から実行委員会への要望として、学会の抄録の特別号掲載について、作業を進めていただきたい旨、また会員メーリングリスト等を活用し、さらに広報を進めていただきたい旨、依頼があった。

14. 第 61 回大会(2022 年)の開催について

第 61 回大会、甲信越支部が新潟近郊で開催することが全会一致で承認された。

さらにこれについて甲信越支部から、運営業者選定についての懸念が示された。岡山大会で依頼している株式会社メッドや、富山大会時に依頼した業者である株式会社 PCO などが有望である旨、出席者からコメントがなされた。なお、第 60 回京都大会については、未だ業者が選定である旨、報告があった。

15. 入退会状況について 【議事 C】

配付資料に基づき、入退会状況が報告され、全会一致で承認された。

16. 委員会・WG 構成について 【議事 D】

配付資料に基づき、利益相反委員会、選奨委員会の構成が報告され、全会一致で承認された。

17. 生体医工学シンポジウム 2020 について 【議事 E】 大城副理事長

資料に基づき、実施計画の報告があり、積極的な参加および論文投稿の依頼があった。

また、ポスターアワードの規約と実施指針、ディープディスカッションの実施指針が示され、

全会一致で承認された。

さらに、生体医工学シンポジウムは、全国大会に相当する規模の学術集会である点を確認した。

18. 関西支部役員について 【議事 I】 大城副理事長

配付資料に基づき、関西支部役員の任免について審議し、大城理支部長の選任が全会一致で承認された。

19. 選奨について 【議事 N】 松村理事

配布資料に基づき、各賞の受賞について報告があった。また、賞への応募数が少ないため、多くの申し込みをお願いしたい旨依頼があった。

配布資料に基づき、新規の選奨として九州支部学術講演会奨励賞の申請があり、全会一致で承認された。

19. Web サービスの利用について 【議事 P】 井村理事

配付資料に基づき、G Suite の利用について報告があった。現在あるサーバに G Suite を導入することを検討しているが、現在全国大会の申請時期であることから、締切後の 2 月 8/9 日に、jsmbe.org の可用性を確認するための作業を試行予定であり、その際数時間程度サービスが停止する可能性があることが報告された。理事長から、理事会 ML に開始と終了をアナウンスするよう依頼があった。

移行については 3 月末を予定しているとのことであった。導入後は、ドメインが jsmbe に統一できるとのことである。

また、Web ページの作成に Google の提供する環境が利用可能となる点、メーリングリストが作成できるようになる点が紹介された。メーリングリストについては、メンバーのアドレス管理をそのメーリングリストの管理者が行うことができるかどうか、確認することになった。

これに関連して、Web 上に会員ログインの機能があれば、生体医工学会会員は IFMBE のジャーナル(Biomedical Engineering and Computing)に無料でアクセスできるとのコメントがあり、技術者とコンタクトをとって可能性について検討することとした。

過去の全国大会、シンポジウムのウェブサイトのアーカイブはデータとしては収集しており、Web 公開可能であるが、そのままでは抄録等がすべて公開されてしまうものも含まれるため、要検討であることが報告された。また広報のため、入会向けパンフレットを作成し、Web 公開することを検討していることが報告された。過去には存在したはずである旨、指摘があり、調査して利用できるかを含めて検討することとなった。

20. 共催・協賛 【議事 O】

配布資料に基づき、後援・協賛の状況について報告があった。

21. IFMBE フェローの推薦について 佐久間理事

推薦について、各国からの推薦が必要であるとの報告がなされた。これについて、佐久間理事

および理事長に一任することとなった。

21. その他

- 今後の理事会は3月、5月に開催予定であり、3月に理事候補、5月に理事長候補が選出される予定であることが告知された。
- 奨励賞の選奨に関わる委員が今後奨励賞受賞者を選出することが確認された。